家康公の故郷　岡崎

2020.10.30

１．徳川家と岡崎市

1.1　市内には徳川家（松平家）ゆかりの国指定重要文化財の建造物が多くあります。

信光明寺観音堂、大樹寺多宝堂、伊賀八幡宮（本殿、幣殿、拝殿、透塀、御供所、随身門、神橋、鳥居）、六所神社（本殿、幣殿、拝殿、神供所、楼門）、滝山東照宮（本殿、幣殿、拝殿、滝山東照宮中門、鳥居、水屋）

1.2　岡崎城の規模

城郭建築の権威である広島大学三浦正幸教授によれば「岡崎城の総曲輪は江戸城、大坂城、姫路城に次ぎ日本で４番目の規模、幕府の威信を掛けたのでしょう。」とのことです。

1.3　将軍家の保護

三代将軍家光書簡：「三河は徳川の本国で、岡崎は本城である。」

滝山東照宮、伊賀八幡宮、六所神社等は幕府の大工頭（鈴木近江守長次等）による施工。

大樹寺（将軍の位牌安置所）	616 石
伊賀八幡宮（将軍家戦勝祈願所）	540 石
滝山寺、滝山東照宮（家光の命で幕府造営）	612 石
六所神社（東照大権現降誕の地にある霊神）	162 石
松応寺（家康公実父広忠の菩提寺）	100 石
因みに京都の浄土宗総本山知恩院	703 石

1.4　長州征伐に際しての天璋院篤姫の助言

長州征伐に際し幕臣は身体の弱い１４代将軍家茂に海路を考えていたが、天璋院篤姫は「船は沈むこともある。」と陸路で岡崎城に立ち寄る様に助言しました。

２．八丁味噌

岡崎城から西へ八丁（８７３m）離れた八帖村で作られたことが名前の起源です。往還通（旧東海道）を挟み株式会社まるや八丁味噌、合資会社八丁味噌（カクキュー）の２社が生産する味噌のことを八丁味噌といいます。まるや八丁味噌の創業は 1337 年（延元２年）、カクキューは 1645 年（正保 2 年）の創業、宮内庁御用達で現在は 19 代早川久右衛門氏が代表を勤めています。八丁味噌は矢作川の伏流水、川船で運ばれた大豆等の原料、上流から運ばれた丸石等の恩恵を受けました。

14 代、15 代、１6 代の当主は岡崎藩主本多忠民（老中）の娘が「久姫」であったため「久」のつく人は改名する様にお触れが出され、休右エ門という名前でした。

早川家の先祖は今川家の武士でしたが 1560 年に桶狭間で今川義元が織田信長に敗れたため、武士を辞め矢作の寺で味噌づくりを習ったことが発端です。江戸で三河屋といえば味噌、酒等の醸造商品を扱う店の屋号でした。

３．岡崎公園

伊勢神宮の正式名称は「神宮」ですが、明治６年に太政官布告の「公園法」という法律が定められ愛知県下にはまだ公園がなかったため、明治 12 年に岡崎城内に「公園」の石碑が建てられました。

その後、大正時代に東京の日比谷公園や北海道の大沼公園の設計を手掛けた本多清六東京帝国大学教授の設計により本格的に岡崎公園の整備が進められました。

岡崎城の天守閣は明治６年の廃城令で取り壊されましたが、市民の再建運動等により昭和３４ 年に木戸久名古屋工業大学教授の設計による復興天守が再建されました。天守閣の東隣りには家康公（東照大権現）と本多忠勝公（映世大明神）が祀られている龍城神社があり、毎年元旦には徳川家縁起の兎汁が振る舞われます。

春には桜祭りがあり、日本のさくら名所 100 選の一つとして 800 本のソメイヨシノが咲き誇り、５月には藤棚の五万石藤、八月は菅生神社の奉納花火である岡崎城下家康公夏まつり　花火大会、秋には紅葉、ドウダンツツジ、銀杏が公園を彩ります。

4.六所神社

　松平氏に信仰された家康誕生時の産土神（うぶすながみ）です。社殿は家光の命により寛永 13 年（1636 年）に完成し、様式は三間社流造（拝殿、幣殿、本殿が一体となっており屋根は非対称曲線）で千木と勝男木はありません。桜門は綱吉の命により元禄の造営、典型的な和様の構成で主要部分は丹塗、上層高欄や格天井（ごうてんじょう）は黒漆塗、一部の装飾に極彩色が施されています。

昭和の修復は国宝修復の小西工芸社が担当し、主要部分はベンガラではなく高価な丹が使われており極彩色の装飾は日光東照宮を彷彿させます。

5.矢作橋

『信長公記』には天正 10 年に信長と家康が一緒になって武田を壊滅させた後、甲斐からの帰りに東海道に出た信長が「造作にて橋を架けさせ・・・矢はぎの宿を打ち過ぎて」の記述があり、『矢作御橋記録』にも 75 間の土橋の記録、岡崎城主本多康重の時代にも最初に架けられた 75 間の土橋の記録や、慶長 12 年の朝鮮通信使記録には「城西大川土橋有、長可三百余歩」の記録もありますが、当時の土橋がどの様な橋であったかはよく分かっていません。

北　斎

北斎や広重の作品に矢作橋が描かれたものがありますが、矢作橋は当時日本で一番長い橋（全長 208 間）、二番目は岩国の錦帯橋（全長 125 間）、三番目は吉田大橋（豊橋市　全長 120 間）であったのが理由と考えられます。

広　重

橋の架け替えは公儀（幕府）普請の仕事であり、遠隔地他藩の作事方が参画した国家プロジェクトでした。

現代の橋梁工事は大型のクレーンと杭打機で簡単にできますが、当時は太い材木の先端を鉛筆状の杭にした後、杭の頂上に土のう状の重りを載せ、大勢の人力により縄で杭をグルグル回しながら 156 本の杭を川底に食い込ませる杭震込工法でしたので大変だったと思います。大井川や天竜川に橋が架けられなかったのは当時の土木技術では矢作橋の長さが限界だったと考えられます。

シーボルトも矢作橋をスケッチし、スケッチは今もオランダのライデン博物館にあります。

寛永 15 年の林羅山『丙辰紀行』には「江戸より京までの間に大橋四あり、武蔵の六郷、三河の吉田、矢矯、近江の瀬田なり。」の記録がありますが、大水や火災で何度も架け替え、現在の矢作橋は寛永 11 年の橋から数えて 14 番目の橋となります。

矢作橋西岸の「出会之像」

慶長６年（1601 年）に日吉丸（秀吉の幼名）と蜂須賀小六が矢作橋で出会ったという江戸時代の絵本太閤記の名場面がありますが、時代考証から秀吉は既に亡くなっていますので、この名場面は史実ではなく絵本太閤記の中の物語です。

財政困難だった安政２年(1855 年)から明治 10 年（1877 年）までの 20 年間余り矢作橋は架け替えられず、明治４年の将軍家茂上洛の時は船橋が設けられ川船 150 艘が調達されたという記録があります。

岡崎駅にあった八丁味噌の看板

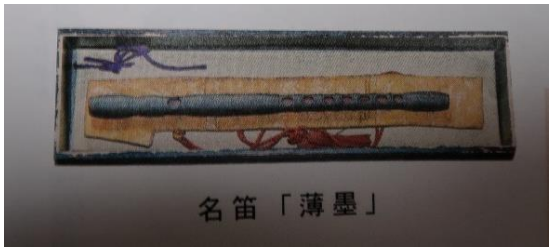
6.浄瑠璃姫伝説

日本の伝統芸能でユネスコ無形文化遺産に登録されている浄瑠璃のルーツとなった浄瑠璃姫伝説をご紹介します。

承安４年（1174 年）源義経が京都から奥州の藤原秀衡を頼って向かう途中、矢作に住んでいた浄瑠璃姫（兼高長者の娘）が奏でる美しい琴の音に足を止め、義経も琴の音に合わせ手持ちの名笛「薄墨」を吹き、義経はその

夜兼高長者の家に宿し二人は恋に落ちますが、翌朝義経は奥州平泉に旅立ちました。

浄瑠璃姫は義経との再会を心の支えにして過ごしましたが再会は叶わず乙川の浄瑠璃淵に身を投じたという伝説があり、浄瑠璃姫の墓や供養塔は矢作の誓願寺、姫が幽閉された現在の岡崎城下、姫が身を投げた浄瑠璃淵にある成就院にあります。



7.三河武士

7-1　１５世紀までの岡崎

市の西部、西本郷町に宮内庁管轄の景行天皇の皇子　五十狭城入彦皇子（いさきいりひこおうじ）の御陵（和志山古墳）があり、市の北部には飛鳥時代に物部氏が建立した北野廃寺跡や物部真福が建立した真福寺があります。鎌倉時代（1238 年）に足利義氏が三河守護となり鬼祭りで有名な滝山寺を建立、細川家の先祖がいた細川町、三河守護の仁木氏がいた仁木町も北部にあります。細川氏、仁木氏、吉良氏、一色氏等は足利氏の支流であり、今川氏は吉良氏の支流となります。徳川四天王の榊原康政も仁木一族ですが伊勢の榊原にいたことから榊原を名乗りました。市の東部には足利尊氏の命で足利義満が建立した重要文化財の天恩寺があり扁額は義満直筆です。市の南部には建久元年（1190 年）三河守護の源範頼が兄頼朝の命で創建した重要文化財の上地八幡宮があります。

7-2　三河武士

１５世紀から１６世紀にかけ松平郷（豊田市）の松平氏が矢作川と乙川が合流する岡崎へ南下し、岡崎の地名は七代清康が岡崎城（岡の崎にある城）と命名した 16 世紀初頭にできたと考えられます。家康公は八代広忠の嫡男として天文 11 年（1542 年）に岡崎城で誕生しました。

松平家の家臣となった武士は在地領主出身（地侍）の武士と名主層出身（名田を持つ農民）の武士の二種がありますが、前者の方が上級家臣の地位を占めました。経歴により安城譜代、岡崎譜代等と区別することもありますが、家康公が今川氏の束縛から解放され岡崎に帰還後、長い間忍従生活を強いられていた家臣達は主（あるじ）を得てから各地で奮戦し、中でも戦いぶりの優れた武将は四天王、十六神将と呼ばれました。

永禄 6 年（1563 年）から半年間程続いた三河一向一揆は家康の家臣菅沼定顕が糧米徴収に際し、上宮寺（市の西部）で「不入の特権」を破ったため、上宮寺、勝鬘寺（市の南部）、本證寺（安城市）を拠点に起きた一揆でしたが、十六神将の家臣（渡辺守綱、蜂屋貞次）や本多正信、夏目吉信、内藤清長、石川康正などの家臣が一揆側に味方したため家中が二分した危機となり、家康の三大危機が三河一向一揆、三方ヶ原の戦、神君伊賀越えと言われた所以となりました。

関ヶ原の戦後、本多忠勝は大多喜から桑名の藩主となり桑名の町割りをしましたが、当時の桑名藩の領地には豊臣秀頼の領地もあり、忠勝は家康の部下でもあり、秀頼の部下でもある二重公儀制でした。（因みに寛政以降は公儀の代わりに幕府という言葉が広く使われるようになりました。）

江戸幕府では三河出身の親藩、譜代大名は 279 藩中 123 藩、直参、旗本 840 家中 295 家が三河武士であり、中でも一番多くの大名家を出したのが本多家です。本多家の遠祖は中臣氏ですが、①忠勝を輩出した平八郎家、②長篠の戦場から妻宛に日本一短い手紙「一筆啓上　火の用心　お仙泣かすな　馬肥やせ」を書いた丸岡城主の作左衛門家、③旗本となった正信の弥八郎家、④近江膳所城主となった康俊の彦八郎家、⑤江戸時代最初の岡崎城主となった康重の豊後守家等があります。

江戸の地名は桓武平氏の末裔である江戸氏が居城を構え、同族の豊島氏、葛西氏、渋谷氏等が地

名として残りましたが、半蔵門は家康家臣の服部正成（半蔵）、青山は青山忠成の居所、新宿は内藤清成が内藤新宿を設けたことに由来します。明治の文豪夏目漱石の先祖も三方ヶ原で家康の身代わりとなり討死した夏目吉信です。また成瀬正成も三河武士であり犬山城主となり、現在も 12 代成瀬淳子さんが財団法人理事長として犬山城を管理してみえます。例年春に開催される家康行列には福山や茅ヶ崎から親善大使が参列されますが、水野勝成が初代の福山城主、大岡越前守忠相の先祖である２代目の忠政が茅ヶ崎（相模国高座郡堤村）に知行地を与えられたことが由来です。

8．江戸と徳川家

古代ローマはティベル川を挟んだ七つの丘からできましたが、火山灰から成る関東ローム層に覆われた江戸にも上野、飛鳥山、本郷巣鴨、小石川牛込、麹町四谷、麻布赤坂、芝白金の七つの丘がありました。但し江戸の町づくりはローマとは随分異なり、徳川家が江戸に入府すると江戸前（丸の内、銀座、築地）の海を神田山（駿河台）の土砂で埋め、江戸城を囲むように諸大名や旗本の邸宅を配置し、五街道や飲料水となる上水の建設そして治安を保ちながら商工業者を集める施策など将軍の膝下に相応しい町づくりを着々と進めることにより、江戸は世界一の都市となりました。

9．あとがき

家康公の故郷　岡崎を簡潔にご紹介しようとしましたが最後まで要領を得ない纏まりのない文脈となり反省しています。ツーリズムで集客させるには①History ②Fiction ③Rhythm & Taste ④Girl & Gamble ⑤Shopping ⑥Sightseeing の内３つが必要とのことですが、歴史と八丁味噌に加えて、昨今は籠田公園のリニューアル、桜城橋開通、乙川沿い回遊歩道の整備、オトリバーサイドテラス等新規店舗の開業等で景観やグルメの魅力も向上し楽しい町になってきました。中村　正

10. 岡崎市の歴史年表（付録）

	西暦	岡崎のできごと
縄文時代		村上遺跡
弥生時代		山王遺跡
古墳時代		甲山古墳、岩津古墳
飛鳥時代		**物部氏　北野廃寺建立**（法隆寺と同規模で伽藍配置は四天王寺型）
奈良時代	716	**大宝律令の国郡里（郷）制に基づき三河の国は八郡、額田は八郷**
		三河八郡(碧海、額田、加茂、幡豆、宝飯、八名、渥美、設楽）
		額田八郷(新城、鴨田、位賀、額田、麻津、六名、大野、駅家）
平安時代	1185	**安達盛長（源頼朝の側近）が最初の三河守護となる**
鎌倉時代		**鎌倉街道の宿として矢作東宿・西宿ができる**
	1222	滝山寺本堂ができる
	1232	親鸞　矢作西宿の妙源寺柳堂で説教する
	1238	**足利義氏（北条泰時の娘婿）が三河守護となる**
	1267	**滝山寺三門（仁王門）ができる（仁王様は運慶作）**
		この頃細川氏等足利一族が三河地方で地盤を固める（市内細川町）
室町時代	1350	**仁木義長（足利氏一族）が三河守護となる**（市内仁木町）
	1451	松平信光が岩津城を築き、信光明寺観音堂を建立
	1455	**三河守護代西郷頼嗣が南下する松平氏に備え岡崎城を築く**
	1475	松平信光の子親忠が大樹寺を建立
	1520	**松平清康岡崎城に入る**
	1535	**松平清康大樹寺多宝堂を建立、清康守山にて刺殺される**
	1542	**今川義元、織田信秀、市内の小豆坂で戦う、家康誕生**
	1548	**今川、織田、再度小豆坂で戦う**
	1549	**広忠（家康の父）殺され、岡崎城今川にとられる**
	1563	**三河一向一揆起きる**
	1565	家康三河を平定する
安土桃山時代	1579	**岡崎城代　石川数正（後の松本城主）城下を整備、土呂八幡宮建立**
	1585	城代本多重次、城の櫓、侍屋敷を作る
	1590	**田中吉政（豊臣家家臣）が城下町の建設をする**
江戸時代	1601	本多康重、上州臼井より移封し岡崎城主となる（豊後守家）

1601　岡崎城に伝馬の制が定められる

1645　水野忠善、三河吉田より移封し岡崎城主となる

1701　この後 10 年間で 3 度の大洪水により田畑流出

1717　**岡崎藩主水野忠之老中となり、将軍吉宗の享保の改革を支える**

1730　水野忠之老中辞職

1757　両町、伝馬 200 戸火災

1769　本多忠粛城主となる（平八郎家）

1781　**藩主松平康福、老中首座となる**

1788　松平康福老中免職

1832　材木町、連尺町、能見町、井田町 300 戸火災

1836　西加茂にて百姓一揆おきる

1850　伝馬町困窮、休役願い

1860　**藩主本多忠民老中となる**

1861　伝馬町困窮、休役願い却下

1862　本多忠民老中辞職

1868　明治天皇東行の際岡崎に宿泊

明治時代　1869　岡崎知事に本多忠直　允文館、允武館を設ける

1871　岡崎藩を岡崎県としたが、11 月に三河 10 県を額田県とした

1872　額田県から合併し愛知県となる

1875　岡崎郵便局できる、連尺小学校に洋風二階校舎できる

1881　岡崎貯金会社できる

1886　愛知紡績所民間に払い下げ

1888　**岡崎駅営業開始**

1889　岡崎町制施行　人口 15,778 人　3,956 戸

1892　岡崎商工会議所設立

1896　岡崎第二中学校開校

1897　岡崎電灯合資会社開業

1898　**岡崎馬車鉄道（株）岡崎駅-殿橋開通**

大正時代　1916　**岡崎市制施行、人口３万７千人**

1923　**愛知電気鉄道（有松・東岡崎）開業、岡崎電気鉄道（殿橋-井田）開通**

昭和時代　1927　**愛知電気鉄道（神宮前・吉田（豊橋））開通**

1933　この前後、日清レーヨン、森永製菓等　大工場が建設される

1944　**三河大地震**

1945　**岡崎大空襲**

1948　**名古屋鉄道　豊橋・新岐阜間直通運転開始**

1949　愛知学芸大学できる

1951　国道１号線拡張工事完成・新矢作橋完成

1955　町村合併、人口 155 千人

1959　**岡崎城復元（復興天守）、伊勢湾台風**

1962　**名鉄市内線（市内電車）廃止しバス化**

1968　東名高速道路岡崎インター完成一部開通

1973　西康生都市再開発完成（松坂屋、名鉄ホテル等）

1976　**岡多線　豊田岡崎間旅客輸送開始**

1981　**岡崎国立共同研究機構創設（現自然科学研究機構）**

1988　ＪＲ岡多線が廃止され愛知環状鉄道がスタート

平成時代　1989　人口 30 万人

1991　岡崎市民球場、岡崎市民体育館完成

1993　新編岡崎市史全 20 巻完成

1996　岡崎市美術博物館完成

1999　郷土館が国の重要文化財に指定

2000　イオンモール・岡崎西武開店

2002　シビックセンター開設

2005　額田郡額田町と合併

2007　ＪＲ岡崎駅乗降客が名鉄東岡崎駅乗降客を上回る

2008　図書館交流プラザ完成

2010　松坂屋岡崎店閉店

2014　人口３８万人

令和時代　2019　東岡崎駅前ペデストリアンデッキ・家康像完成

2020　桜城橋完成、藤田医科大学岡崎医療センター開業、西武岡崎店閉店

文責：中村　正